

NHKの目的はどこにあるのか

取材と抗議文取り消し依頼の情況

番組出演者

藍 昭光



記者会見で取材状況を話す藍氏
(9月17日、司法記者クラブ)

NHKの取材経過

私は藍昭光と申します。一九三〇年（昭和五年）八月十八日に日本の京都で生まれました。ちょうど父が京都帝国大学大学院に在学中で、私は京都の北白川で生まれ、約三年間京都に居り、その後両親の都合により台湾へ帰って参りました。

私はその後台湾で旧制中学、高校教育を受け、京都大学法学部を卒業、六十七歳の時に日本企業の台湾総経理をリタイアいたしました。私の家は日本時代に優遇された五人の中の一人という家庭だったようです。そのために私の父も中学校から日本へ送られ、高等学校を出て、京都帝大を出たわけです。勿論祖父は清朝時代から日本統治になりましたから、日本の教育は受けておりませんが、その後日本の台湾統治において、日本政府に色々協力したため、日本政府から台湾人として当時非常に少なかったのですが、勲章を授与され

ており、永年台湾総督府の評議会員を務めました。父はその後上海へ行き、日本の軍部との仕事をしておりました。父もまた日本政府より勲章を授与され、そのため戦後私たちの家庭は国民政府から逮捕状が出て、非常に苦労いたしました。それが過去の私の家庭における経歴です。

さて、一昨年（二〇一〇年）の十一月にNHKが台湾において取材された経過を簡単に申し上げます。

二〇〇八年十一月、NHKが台湾において取材するというニュースをいただき、ちょうど台北一中の台湾人の同窓会が開かれるということで、台北一中の先輩から台北三中卒の人も参加するようになると言われ、その日台北三中卒の台湾人六名と台北一中の同窓生約二十名が台北のレストランにおいて会合し、その場に日本から濱崎ディレクターとカメラマンを入れて約五人だったと思いますが取材に来ました。取材での冒頭は私たちに対して、「改姓名はどう思うか」ということを

聞きました。もちろん改姓名はよく言われるような強制ではなく、日本の政府による許可制だとはつきり申し上げました。なぜ改姓名をするかというと、台湾人の立場から言えば、もちろん戦時中で配給が日本人並みになるという特別待遇の制度、それから子弟の進学に対して比較的有利だということなどで改姓名をいたしますが、改姓名のできる家庭は、当時日本の教育を相当受けた家庭だからごく少数であり、台湾人の約三パーセントから五パーセントほどだったと思います。

インタビューと実際の放送内容

第二の問題は「あなたたちは日本時代に日本人になりたかったか」ということを聞かれました。この問題は私たちとしては「なりたくない、なりたくない」というよりも、当時は日本人であるという気持ちを持っておりましたので、別に今更日本人になりたいという気持ちはございませんでした。これは私たちの当時の端的な気持ちでした。もちろん他の一般的な台湾の人全体がどういう気持ちをもっているかは私が全体を代表することは出来ません。

次に一般的なインタビューが終わってから、第一にインタビューを受けたのが柯徳三先生かとくぞうでした。その後に私にマイクが回ってまいりました。私はそういうことをぜんぜん予測していませんでしたが、マイクが回ってきたので、私の言いたいことを言いました。私は冒頭で、「今まで日本の方々が、

台湾に来て聞く台湾人の言葉は、『ああ、日本時代は良かった、良かった』という言葉だと思えますが、私は客観的に申し上げます。実際面で日本時代に色々な差別待遇があったのは事実でございます。私たちがその年齢で非常に感じたのは、進学の問題でした。学校に入るには、台湾において日本は基礎教育、所謂国民学校の教育は非常によくしていました、中等学校以上の学歴になると、台湾人をあまり上級の学校に入れられないという政策があったと思います。台北で申しますと、台北一中、三中、四中、この三校はいづれも台北近郊に居ります日本人の子弟を教育する目的で作った中学であり、ただ台北二中だけが台湾人を養成する中学でした。そのため不文律として一クラスに台湾人は多くて一〇パーセントからそれ以下で台湾人を抑えるという風な規定があったように思います。私達の台北三中の場合でも、一学年のうちに台湾人の方は確か十七、八人だけという状況でした。勿論嫌がらせ等色んなことがあったのも事実です。しかし私たちが言いたかったことは、そういう諸々の差別待遇があったとはいえ、我々が結果的に見るべきは何かというと、日本の統治時代に行われたインフラ建設であり、台湾が今日近代国家として発展できたことを、大多数の台湾人が感謝していると私は確信しております、これが一番大切な結論ではないかと思えますと言いました。ところが番組には、後半に言ったことは出ずに、不満だけが画面で取り上げられました。

NHKがこの番組を放映した後に、私たちがこの問題に抗議することになった経緯を言いますと、私はその日NHKが放送されることに對して全然知りませんでした。確か、柯徳三先生が電話をくれ、また日本からかつての同僚が電話をくれて、「藍さん、まだNHKに出ているよ!」と言われまして、びっくりしてNHKを見たわけです。ところがその内容は私が初めに言った言葉は出ていたようですが、後半に言った言葉(一番大切な結論)は殆ど消されているように感じました。それは当時その場にいた皆さん方も感じたことで、これに對して我々は非常に公平公正ではないと感じ、その気持ちをもちましてみなさんが色々抗議を始めたということです。

抗議文取り消し依頼の情況

第三に申し上げたいのは、濱崎ディレクターが柯徳三氏の自宅まで行つて、抗議文の取り消しを依頼した情況につきましては、私はその日偶々柯徳三氏に用事があるからお伺いしたいと電話したら、「いらっしやい」という事になっていて、今でもはつきり覚えていますが、二〇〇九年の六月二十二日午後三時半ごろに柯徳三氏の自宅へ参りますと、そこに二人の日本人がいました。一人はすでに知っている濱崎ディレクター、もう一人は知らない人で、田辺雅泰チーフプロデューサーという名刺をいただきました。その場には台湾駐在のNHKで仕事をしている陳さんという台湾の人と一緒にした

が、彼は案内役のみだったと思われれます。その席で濱崎氏が「この放送で自分は日本において色んな嫌がらせを受けている、殊に自分の子供が危害を受けるといふような嫌がらせを受けて非常に辛い」といふようなことをはつきり言われました。勿論私はそれを聞いて非常に気の毒だと感じました。しかし、それと所謂日本のNHKに對して抗議をしないということとは別問題でございます。その時に田辺雅泰チーフプロデューサーが、手書きにした原稿を私に渡しました。今でもその原稿を持っております。その内容は「NHKスペシャル「アジアの一等国」の内容に関してはNHKに對し「抗議と訂正を求める要望書」に署名捺印しましたが、これはNHKの番組で使われた四つの用語についての私の意思です。事実関係や用語に関しては、NHKの説明を聞き、納得しました。なお、私はNHKに對して抗議する気持ちはありません。】と書いております。手書き用紙の裏側を何気なく見ましたら、裏側はタイピングしたもので、【NHKスペシャル「アジアの一等国」の内容に関しては、NHKに對し「抗議と訂正を求める要望書」に署名、捺印しましたが、私はこれを撤回します。なお、私はNHKに對して抗議する気持ちはありません。2009年6月 日】と記載されており、タイピングした方があまりにも高圧的な文書のため、私には手書きのものを渡したのかも知れません。比べてみれば分かりますが手書きの内容のほうが少し婉曲な言い回しになっています。し

かしながらあの時点で反省の様子も無く、私達台湾人に対してこのような文面にサインを頼む態度は、あまりに台湾人を軽く見すぎていると腹立たしい気持ちがありました。当日はその場で、「柯徳三さんは既にこの状態に納得なさり、サインされました」ということを私に話されました。しかし私はサインを求められましたが少しも納得していないのできっぱりと拒否し、原稿だけを持って帰りました。「お宅へお伺いしますから、よく考えてください」とも言われたのですが、私はサインする気持ちはもともとありませんでした。

それと同時に私の先輩である張俊彦氏に会いたいと言われているので、「どうして張さんに会いたいのですか」と聞きますと、「張俊彦氏にもこういうことを説明したい」と言われるものからです。私は帰宅してから、張俊彦氏に電話しました。すると先輩の張さんは、「私はこの件に対して再三意見を述べているので、今更来られても意味がないから会う気持ちはございません」ときっぱり断られましたので、六月二十三日の夕方五時ごろ、つまりお二人が日本へ帰られる前に私の家に電話をかけて来られ、張さんに会いたいということを言っておられました。張さんは今更お会いすることは意味が無いとおっしゃっているときっぱり断りました。これが当時の実際の状況でございます。

後の話で、柯徳三先生は「濱崎氏が涙を流してひざまずいて謝り、子供の身の危険すらあり、警察に保護願いを出して

いるというので、人間面と向かえば情が移るので、番組内容に納得したわけじゃあないが、かわいそうだから同情してサインした。決して信じているわけではないけれど」ということを話しておられました。私が行ったときにはすでにサインした後だったらしく私自身はその場面を見たわけではありませんが、このことは後に柯徳三氏が日本の人のインタビューに私と二人で応えた時にはっきりおっしゃっていました。私自身も個人的には同情しましたが、これと公共放送の番組偏向、恣意的な編集態度の問題とは、別問題だと考えます。

「日台戦争」、「人間動物園」、「漢民族」、「中国語」の問題にしても私たちは非常におかしいと感じています。なぜNHKはあのような事を強調するのか、その本意はどこにあるのかと疑問を感じないではおられません。私たちの発言から日本統治時代を否定する箇所だけ出して、肯定する面をカットしてしまったその目的は一体何処にあるのかとNHKに問いたいのです。

私が言いたいのは、確かに日本時代は台湾において差別待遇があったということは事実ですが、日本統治時代を経て、今日まで生き続ける台湾人の大多数は台湾において行われたインフラ建設により、台湾が今日の近代国家に生長することができたことに、大部分の台湾人がこれを深く感謝しているということを私は確信しています。これが私の結論です。

二〇一〇年七月八日